



設定のチェックリストおよびヒント

この項では次のトピックについて説明します。

- [初期設定チェックリスト \(P.A-1\)](#)
- [結果の表示について \(P.A-2\)](#)
- [オプションの設定チェックリスト \(P.A-2\)](#)

初期設定チェックリスト

表 A-1 に、Service Monitor が MOS の監視およびトラップの送信を開始する前に、行う必要のある設定作業を示します。

表 A-1 初期設定作業チェックリスト

作業	説明および参照先
Service Monitor および Cisco Unified CallManager (ネットワークで使用している場合) の設定	
	P.B-1 の「Cisco Unified CallManager の設定」 の説明に従って、Cisco Unified CallManager を設定します。
	Cisco Unified CallManager の資格情報を Service Monitor に追加します。 P.3-2 の「Cisco Unified CallManager の資格情報と概要」 を参照してください。
Service Monitor およびセンサー (ネットワークで使用している場合) の設定	
	1 台以上の TFTP サーバを追加します。 P.4-3 の「センサーのコンフィギュレーション ファイルおよびイメージファイル用の TFTP サーバの設定」 を参照してください。
	センサーのデフォルト コンフィギュレーション ファイルを設定します。 P.4-5 の「センサーのデフォルト設定の設定」 を参照してください。
	バイナリ イメージ ファイルを TFTP サーバの root ロケーションにコピーします。 P.4-4 の「バイナリ イメージファイルの TFTP サーバへのコピー」 を参照してください。
トラップ レシーバの設定	
	Service Monitor は、生成された SNMP トラップを最大 4 つのトラップ レシーバに送信できます。 P.3-2 の「トラップ レシーバの設定」 を参照してください。

サーバおよびクライアントの設定作業

Service Monitor サーバでは、`NMSROOT\databases` ディレクトリをウイルス スキャンから除外する必要があります。ウイルス スキャンのためにデータベース ファイルがロックされると、問題が発生することがあります。



(注)

`NMSROOT` は、Service Monitor がインストールされているシステムのディレクトリです。インストール時にデフォルト ディレクトリを選択した場合は、`C:\Program Files\CSCOPx` です。

Service Monitor クライアントでは、ポップアップ ウィンドウの表示をブロックするソフトウェアをすべてディisableにする必要があります。Service Monitor は、情報を表示するために複数のウィンドウが開けるようにする必要があります。

結果の表示について

表 A-1 の作業が完了すると、Service Monitor は次のようにデータの受信、分析、および表示ができるようになります。

- センサーは、60 秒ごとにレコードを Service Monitor に送信し、コールの処理中に計算された MOS を報告します。このため、Service Monitor がトラップ生成を開始した後でも、コールを処理できます。同様に、コールの処理中でも、センサー データを Service Monitor レポートに表示できます。
- コール データ レコード (CDR) は、コールが完了してから Cisco Unified CallManager によって書き込まれます。Service Monitor が Cisco Unified CallManager から 60 秒ごとにデータを取得したとしても、コールが完了しないと、Service Monitor はトラップを生成できません。同様に、コールが完了しないと、CVTQ データは Service Monitor レポートに表示できません。

オプションの設定チェックリスト

オプションの設定作業により、次のことが可能になります。

- Service Monitor がトラップ生成の起動に使用する、デフォルトのグローバルなしきい値（コードブックごとに1つ）をアップデートおよび無効にする。
- 最も影響の大きいエンドポイント レポートを、毎晩および毎週自動的に作成する。

作業	説明および参照先
グローバルなしきい値のアップデートおよび無効化	
	グローバルなしきい値をアップデートします。 P.5-3 の「グローバルなしきい値の設定」 を参照してください。
	グローバルなしきい値を無効にし、選択したセンサーに値を設定します。 P.5-9 の「センサー グループの設定」 を参照してください。
	グローバルなしきい値を無効にし、選択したクラスタに値を設定します。 P.5-4 の「CVTQ グループの設定」 を参照してください。
最も影響の大きいエンドポイント レポートのエクスポート	
	P.3-12 の「エンドポイント数の設定と Most-Impacted Endpoints レポートのエクスポート設定」 を参照してください。